



福岡県

令和3年度

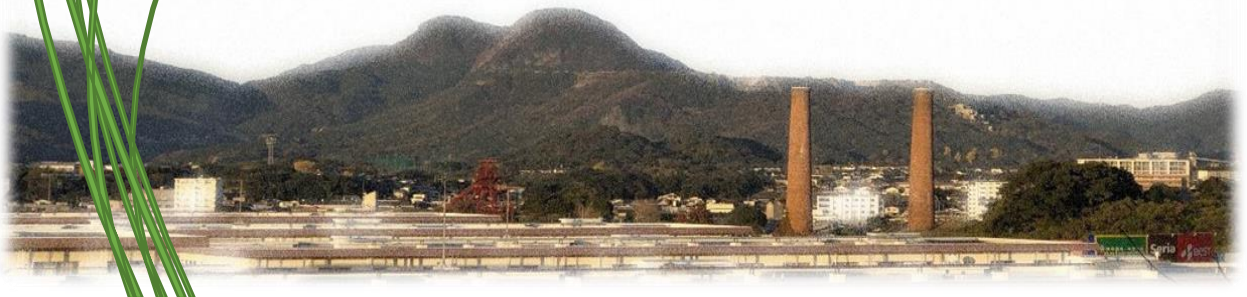
普及活動成果集



たくましい経営体の発展と、
がんばる新規就農者の定着を
わたしたちは全力で応援します。

令和4年3月

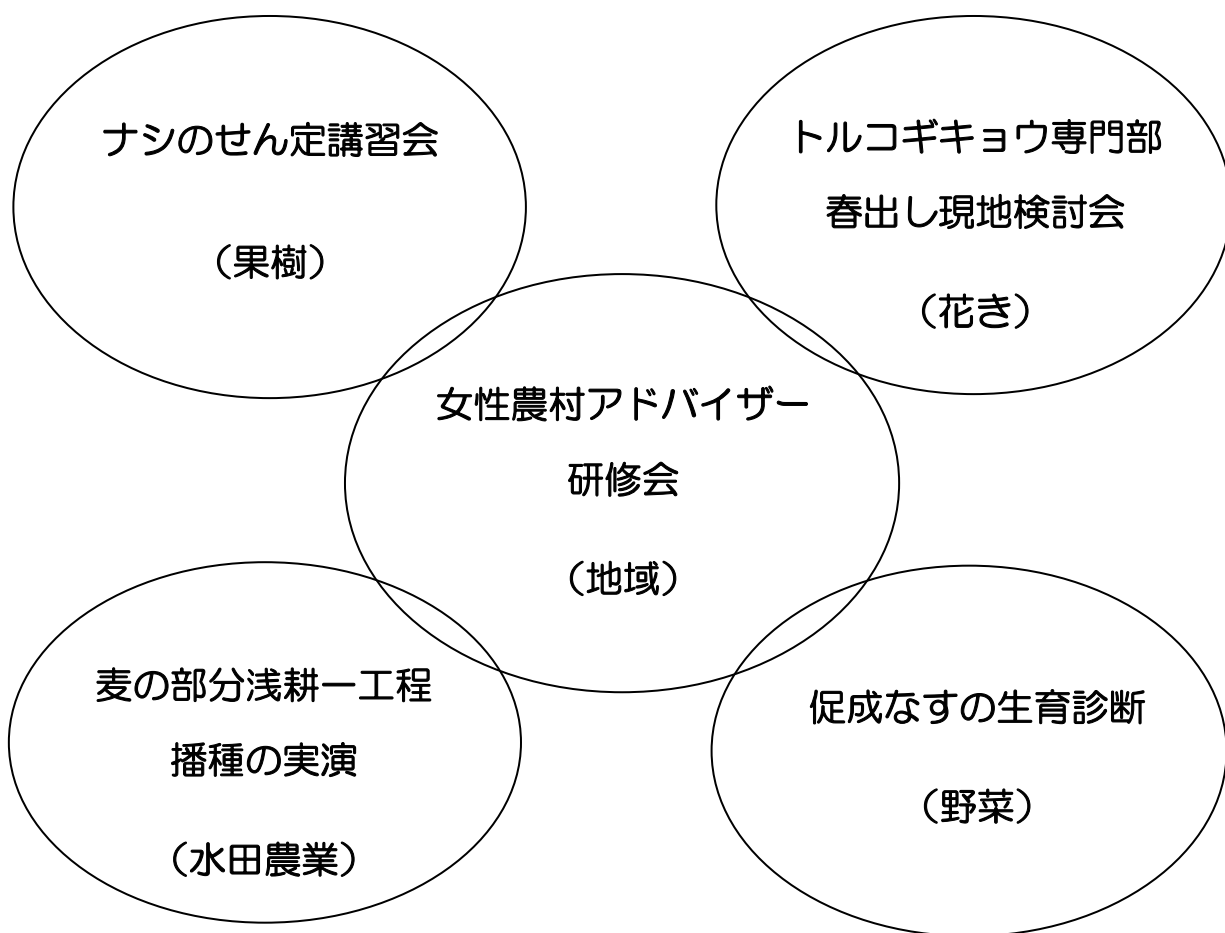
飯塚農林事務所田川普及指導センター





表紙写真タイトル

(関連部門)



普及活動スローガン

はじめに

令和3年度も前年度からの新型コロナウイルスの感染拡大により、緊急事態宣言や福岡コロナ警報が発出され、引き続き経済活動は、大きく制限される事態となりました。農業場面においても、会食やイベントの縮小、中止に伴う需要減少、観光やインバウンド需要の落ち込み等による生産・販売への直接的な影響の他、物流コストの上昇、労働力不足等取り巻く環境も大きく変化しています。

田川普及指導センターにおいても活動が制限される中、生産者に直接接することから特に3密に注意し、感染防止対策に取り組みながら現場での普及活動に取り組んでまいりました。

田川普及指導センターでは、「福岡県農林水産振興基本計画」で示された5つの目指す方向のもと、『たくましい経営体への発展と、がんばる新規就農者の定着を、わたしたちは全力で応援します。』を普及活動のスローガンとして、「人づくり」、「ものづくり」、「地域づくり」の3つの“づくり”を重点活動目標として定め、2つのプロジェクト課題と8つの部門課題を掲げ、普及活動を展開してきました。

この成果集は、令和3年度までに普及活動を通じて一定の成果が上がった活動事例に加え、管内農業の動きや事績について取りまとめたものです。

活動に当たっては、市町村、農業委員会、JA等の関係機関・団体で構成する田川地域農業振興協議会をはじめ、指導農業士、青年農業士、女性農村アドバイザーや部会役員等の農家リーダ者の皆様との連携協力により取り組んできたものであります。この場をお借りしまして、関係各位のご協力に感謝を申し上げますとともに、今後の農業振興を図るうえでの参考にしていただければ幸いです。

今後とも普及指導センターは、「人（担い手）づくり」を中心として、地域農業の振興、農業者の経営発展に向けて職員一丸となって取り組んでまいりますので、引き続き普及事業へのご理解とご協力をお願いします。

令和4年3月

飯塚農林事務所田川普及指導センター

センター長 内山 靖之



目次

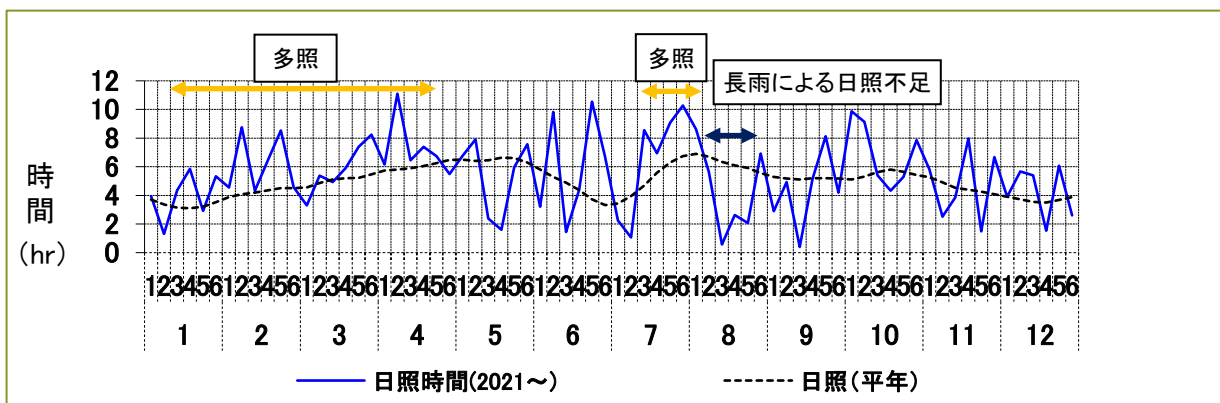
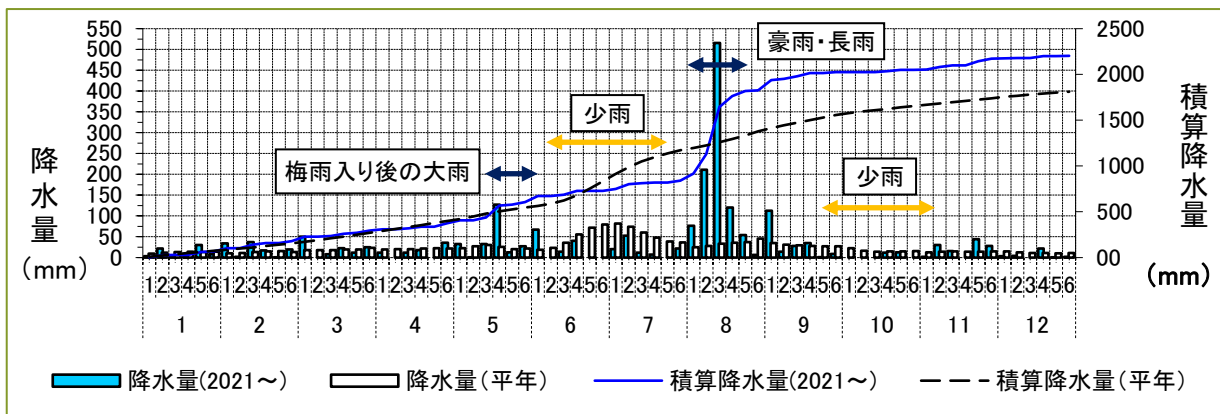
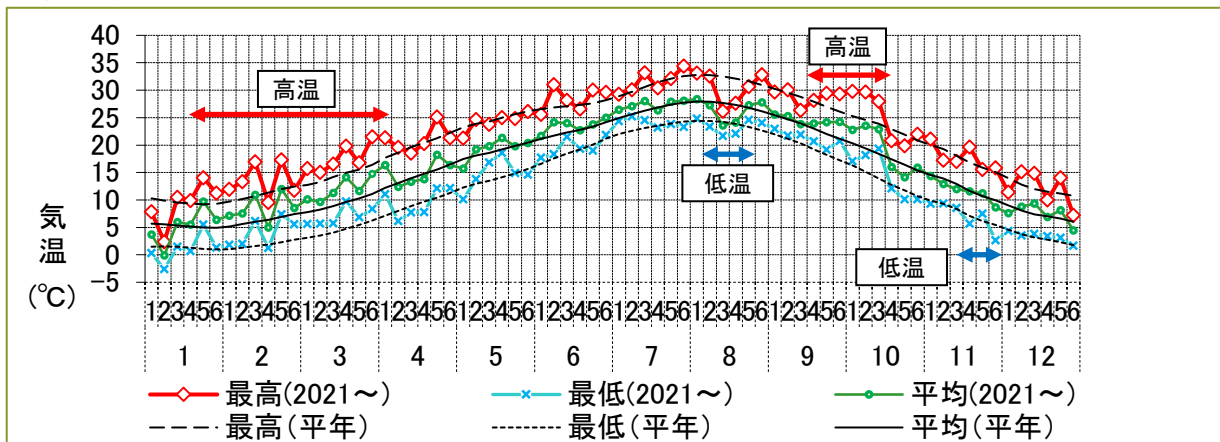
1	令和3年度農業生産の概要	1
	(1) 気象の概要	
	(2) 主な品目の生産概要	
2	普及活動の主な成果	4
	(1) 新たな複合経営による田川地域の園芸振興	
	(2) 地域営農システムの導入に向けた取り組み	
	(3) 認定農業者の経営発展と女性農業者の経営参画支援	
	(4) 小松菜安定生産技術の確立と産地拡大	
	(5) 田川地域の果樹産地の維持・拡大	
	(6) 酪農中長期計画に基づく実践支援	
3	管内の動き（トピックス）	12
	(1) ちくしW2号の収量・品質が向上	
	(2) 福岡県大豆作共進会・麦作共励会で表彰	
	(3) 促成なす生産力の強化	
	(4) イチジクハウスにおける高温対策	
	(5) JA たがわケイトウ部会の産地強化の取り組み	
	(6) オンラインフラワーアレンジメント教室でたがわの花の魅力を発信	
	(7) 田川地域新規就農者のつどいを開催	
	(8) 女性農村アドバイザーが交代	
	(9) 指導農業士交代	
	(10) 青年農業士交代	
	(11) 有限会社グロウテックが全国優良経営体表彰働き方改革部門で受賞	
4	主な実証ほ・展示ほ一覧	18
5	現地活動情報一覧	20
6	普及指導員調査研究一覧	22
7	各種表彰の受賞者一覧	24
8	普及指導センターの活動体制	25

1 令和3年度農業生産の概要

(1) 気象の概要

令和3年の平均気温は高く（平年値+0.7℃）、降水量は多く（平年比122%）、日照時間は長く（平年比110%）になりました。

時期別では、2～3月、9～10月が高温、8月、11月が低温となりました。降水量は5月と8月が多く、6～7月と10月は少なくなりしました。梅雨入りは5月11日、梅雨明けは7月13日となり、平年に比べてそれぞれ24日、6日早く、空梅雨となりました。日照時間は2～4月、7月が長く、5月、8～9月に短くなりしました。8月14日に231mmの豪雨と、台風14号の影響で9月17日に最大風速10.8m/s、最大瞬間風速21.0m/sを記録しました。



飯塚アメダスデータを元に作成

1 令和3年度農業生産の概要

(2) 主な品目の生産概要

水稲:長雨・台風の影響は少なく、平年以上の収量・品質を確保

本年の水稲の作付面積は 1,768ha と前年より 36ha 減少しました。(品種割合: 夢つくし 63%、元気つくし 16%、ヒノヒカリ 16%)

田植えは順調に進みました。6～7月が少雨・高温、8月が寡日照・多雨となり、出穂期は早生品種では約 2 日早く、中生品種では平年並みでした。

県北東部の作況指数は 98 の「やや不良」でしたが、JA たがわ管内では「夢つくし」の収量は平年より多く、1 等比率も約 30%と高くなり豊作となりました。

麦類:生育期間が高温で経過して出穂期が早進化、収量は平年並み

令和3年産の麦類の作付面積は 712ha (小麦 689ha、大麦 23ha) で、前年産と比べ小麦は 24ha 増加、大麦は 23ha 減少し、麦類全体で 1 ha 増加しました。

生育期間中は高温で経過したため、出穂期は平年に比べて 4～6日早くなりました。収穫は大麦で 5月9日頃から、小麦で 5月18日頃から始まりました。

10a あたりの収量は、373 kg (小麦 376 kg、大麦 298 kg) で平年収量の 275 kg (小麦 279 kg、大麦 181 kg) と比較して、大きく増加しました。品質は全量 1 等、Aランクとなりました。

大豆:適期播種されたものの、8月の長雨と10月の乾燥により減収

令和3年の大豆の作付面積は 420ha と前年より 20ha 減少しました。

降雨直後でも播種可能な「部分浅耕一工程播種」技術の導入や適期内の早播きを推進したため、7月20日時点で 85%の播種を完了しました。苗立ちは概ね良好で生育量も十分に確保されました。しかし、8月の長雨による湿害と 10月の高温乾燥による充実不足とカメムシ類による被害粒の発生により 10a あたりの収量は、80 kg (2月時点) と平年収量に対して 86%と低くなりました。

小松菜:夏季の気候変動により出荷に影響出たが、単収は向上

春以降は気候が安定していたため順調に出荷が進んでいましたが、7月に極度の高温乾燥が続いたため、寒冷紗被覆による夏期高温対策を実施していたほ場においても心腐れ症が多発しました。また、8月の長雨時に日照不足により出荷量が一時的に減少しましたが、9月以降は例年問題となっているチョウ目害虫の被害は少なく安定した出荷が行われ、単収は前年対比 107%まで増加しました。

イチゴ:定植期前後の高温が1・2番果の花芽分化に大きく影響

早期作型(株冷)の花芽分化は順調でしたが、定植後の高温により草勢が強くなり、2番果の分化が遅れました。普通促成では、育苗期後半の高温により花芽分化が遅れ、定植後の生育も緩慢で、収穫開始も例年に比べ遅れました。2番果の分化

1 令和3年度農業生産の概要

遅れに、12月中旬以降の気温低下も伴い、1月下旬～2月上旬が出荷端境期となりました。

アスパラガス: 気象変動が出荷量に影響も、高単価で推移

春は高温・乾燥で推移したため、例年どおりのかん水量では不足し、春芽の出荷量は伸び悩みました。8月の長雨後には斑点性病害が増加しましたが、防除の徹底により被害は最小限にとどまりました。また、平均単価については今年も県下最高となりました。

秋冬野菜: 長雨による定植遅れ、定植後の乾燥が影響

8月の長雨により、ほ場準備が進まず、定植遅れが多く見られました。ブロッコリー定植後は高温・干ばつにより生育が抑制され、例年より遅い出荷開始となりました。11月以降は定期的な降雨もあり生育は回復しましたが、チョウ目害虫の発生が12月に入っても続きました。

夏秋なす: 代替品種・省力化技術導入により収量が増加

定植直後から高温傾向で推移したため、例年より5日程度早く生育は進みました。7月の高温乾燥により、日焼け果の発生が例年より多く確認されました。今年から品種が変更したものの生育状況に大きな影響はなく、一部でパッケージセンター利用も開始したことから、出荷量は前年対比108%まで増収しました。

イチジク: 7月の高温乾燥や8月の長雨の影響により出荷量が減少

6月の高温の影響により、管内で生産が多い無加温ハウスでの収穫開始は、前年より10日ほど早い7月上旬となりました。収穫開始後は、7月末までの高温乾燥により高温障害果が発生し、果実は小玉傾向となりました。また一部園地で、8月の長雨の影響により、果実の品質低下や腐敗果の発生がみられました。これらの影響により、出荷量は前年対比92%と減少しました。

トルコギキョウ: 秋出しは適期管理と9月以降の晴天により出荷量増加

生育初期においては、草勢の強い品種においてチップバーンが発生し、8月の長雨の日照不足より株のボリュームが一部で不十分でした。しかし、9月以降は晴天に恵まれ、病害虫の発生も少なく、適期の枝芽整理により、出荷量(前年対比136%)は増加しました。

ケイトウ: 定植初期のかん水の徹底により、品質が向上

長雨により、定植遅延のほ場が多くなったが、その後、苗の活着、草丈促進のためにかん水を徹底したため、品質が向上し、部会平均単価(前年対比110%)が向上しました。

2 普及活動の主な成果

(1) 新たな複合経営による田川地域の園芸振興

1 課題化の背景

田川地域では年間を通じた園芸品目の組み合わせによる複合経営の導入が進んでいない状況です。また、JA共販体制が整っている品目数は多いものの、栽培面積は他産地とくらべ小さく、市場からも規模拡大が期待されています。

このような中、個別農家の経営安定に向け、高収益な園芸品目を組み合わせた複合経営体の育成、スマート農業などの新たな栽培技術の導入やJA全農ふくれん県北広域販売センター（以下：県北PC）を活用した選別・調製作業の外部委託による省力化を図るなど、新たな取組みによる園芸振興を実施しました。

2 活動の内容

(1) 園芸振興方針の策定

田川地域の園芸農業は、品目数が多く産地規模が小さく、年間を通じて収益確保のできる経営体が少ない状況でした。

このため、田川地域農業振興協議会で、園芸品目を組み合わせた複合経営体の育成や産地ビジョンについて協議し、田川地域農業振興計画の策定を行い、園芸品目の推進について協議しました。

(2) 複合経営モデルの作成とモデル農家の育成

田川地域で新たな複合経営のモデルを育成するため、経営品目の組み合わせの検討を行い、推進対象農家の選定や品目の推進を行いました。

(3) 複合経営推進のための園芸農家の省力化推進

園芸品目は選別や調製時間の長いものが多く、その時間を短縮できると、栽培管理にむける時間の増加が図られ、反収や品質の向上、経営計画の検討など多くのメリットが考えられます。

そこで、夏秋なすとブロッコリーの選別・調製を受託する県北PCの活用の推進や、新しい機材等を使ったスマート農業導入推進を行いました。



アシスト機材装着による
ブドウ管理作業の様子

2 普及活動の主な成果

3 主な成果

(1) 園芸振興方針の策定

田川地域農業振興協議会で農業振興計画の検討を重ね、農業生産基盤の整備を図る必要性が再認識され、その中で高収益型園芸品目の導入を推進する合意がなされました。ブロッコリーやさやえんどうなどの新たな品目の導入推進や、作業の外部委託が可能な県北PC施設の利用推進、スマート農業技術の導入について、田川地域で園芸品目推進の認識が共有されました。



ブロッコリー栽培検討会の様子

(2) 複合経営モデルの作成とモデル農家の育成

経営内に新たな品目を導入した経営体が5戸、既存品目の規模拡大を図った経営体が1戸となり、新規品目や規模拡大を行う経営体の育成につながりました。

(3) 園芸農家の省力化推進

県北PCの活用推進を図った結果、夏秋なす5戸、ブロッコリーでは8戸が利用を開始し、特にブロッコリーでは産地規模が約2ha拡大し、令和3年作付けで6haを超え、夏秋なすでは、調製作業を委託したことで、栽培管理に注力でき、収量が向上した事例ができました。

4 今後の取り組み

市場の要望に合わせ、収益性の高い園芸品目の導入推進を図りつつ、省力化につながる、新しい技術の導入試験や研修会を行い、安定した農業経営につながるよう支援を行っていきます。

また、スマート農業については、農業で活用できる機器類の技術導入研修会等を実施し、技術や機材の普及を図り省力化につなげていきます。

2 普及活動の主な成果

(2) 地域営農システムの導入に向けた取組み

1 課題化の背景

担い手の減少・高齢化により、畦畔や水路等の管理を担う組織の育成と効率的な土地利用調整を行う持続性のある地域営農システムづくりが求められています。このため、添田町をモデルとして、長野県で取組まれている三階建て営農システムの導入・構築に向けて取組みを行いました。また、土地利用型農業の作業効率化と規模拡大のため、基盤整備の推進を図りました。園芸産地である金の原台地の維持・活用のため、新規品目の導入やほ場の効率的利用および遊休農地の解消に向けた取組みを行いました。

2 活動の内容

(1) 地域活性化検討会議の開催

町、JA、普及指導センターによる地域活性化検討会議を定例的(月1回)に開催し、地域営農システムの構築に向けた検討を重ねました。

(2) 営農センター設立準備委員会の開催

農業委員会に営農システムの必要性や営農センター設立に向けた働きかけを行いました。また、担い手のモデル組織として環境直接支払制度事業に取組みがあった(農)榊田落合営農組合との意見交換を実施しました。



基盤整備推進会議

(3) 地域農業の振興

新城・岩瀬地区の生産者との基盤整備に係る打合せを重ね、関係機関との連携を図り、地元代表者との基盤整備推進会議を開催しました。

(4) 園芸新品目の導入

道の駅歓遊舎ひこさんと連携し新規品目野菜の取組みとして、品目の選定と展示ほ設置による栽培を推進しました。また、花きはリンドウの展示ほを設置しケイトウ、ハボタンの栽培を推進しました。



新規野菜品目試作ほ

2 普及活動の主な成果

3 主な成果

(1) 持続性のある担い手育成について協議

添田町農業の担い手（土地利用型）育成するため、添田町農業委員会に担い手の課題整理や協議をする場が出来ました。

(2) 地域農業の振興

新城・岩瀬地区の代表者は、基盤整備推進会議により基盤整備の重要性や担い手育成についての意識醸成が高まり、基盤整備に取り組む方針を決定しました。

(3) 園芸新品目の活用指針作成

新規野菜は3年間の実証ほを基にロメインレタス、カリフローレの活用指針を作成した。また、花きはリンドウやケイトウ、ハボタンの活用指針を作成しました。



盆出しケイトウのほ場

4 今後の取組み

持続性のある担い手育成は、農業委員会に設立した営農システム検討委員会と連携しながら、（農）柘田落合営農組合を担い手のモデル組織として支援していきます。

新城・岩瀬地区は基盤整備後の農地利用と併せて地域担い手による水稻+麦+大豆の営農体系を図って行きます。さらに、野田地区にも基盤整備を推進します。

金の原台地の園芸活性化のため、道の駅歓遊舎ひこさん、JAと連携し、出荷者の支援を行います。また、野菜、花きの活用指針を利用して、遊休農地解消に向けた取組みや産地化を進めます。



未整備田（水稻のみの作付け）



基盤整備田の麦(担い手による農地の有効利用)

2 普及活動の主な成果

(3) 認定農業者の経営発展と女性農業者の経営参画支援

1 課題化の背景

田川地域の認定農業者は164経営体ですが、女性認定農業者は5名と少ない状況です（令和2年度末時点）。認定農業者の目標達成に向けた支援と女性農業者の経営参画推進、新たな認定農業者の育成に向けた次世代農業者の早期の経営確立をめざし、関係機関と連携し、取り組みを行いました。

2 活動の内容

(1) 認定農業者の育成

経営改善計画作成時に関係機関と連携した支援を実施するとともに、個別の経営相談会やコンサルテーション活動による経営発展支援を実施しました。

(2) 女性農業者の経営参画

研修会等での家族経営協定や認定農業者の共同申請を推進するとともに、女性農業者のキャリアプラン作成講座を開催しました。

(3) 次代を担う農業者の育成

県の農業アカデミー等への参加を促し、今後の経営目標や経営戦略を策定する伴走支援を実施しました。

3 主な成果

(1) 認定農業者の育成

認定農業者の経営改善計画作成時から、市町村と連携して支援していく体制ができました。令和元年からの3年間で、30経営体が新たに認定農業者として認定されました。

(2) 女性農業者の経営参画

3年間で6件の家族経営協定が新たに調印されました。女性認定農業者は共同申請等により3名増加しました。

(3) 次代を担う農業者の育成

3年間で7名の青年農業者と14名の女性農業者が経営戦略やキャリアプランを策定し、今後の経営方針の明確化が図られました。



家族経営協定調印式

4 今後の取り組み

研修会等の実施による認定農業者への支援を継続し、経営発展を目指します。

家族経営協定や認定農業者の共同申請による女性農業者の経営参画を推進します。

農業者が策定した経営戦略やキャリアプランの実現に向けた取り組みを支援していきます。

2 普及活動の主な成果

(4) 小松菜安定生産技術の確立と産地拡大

1 課題化の背景

J Aたがわ小松菜部会では年間の出荷数量の変動が大きく、特に夏季の出荷数量が大きく減少していたため、夏季の高温対策が求められていました。また、労働時間の大部分を占める収穫調製作業の効率向上が課題となっていました。

2 活動の内容

(1) 収量の向上

小松菜の作りにくい盛夏期に適した品種試験を行い、夏季の栽培に適した品種の情報提供を行いました。また、夏季の高温対策として遮光資材の試験を行い、併せて環境測定機器の設置により夏季の生育改善につながるデータの収集・見える化を図りました。生育不良が問題となっていたほ場においては土壌の塩類集積が原因であると判断されたため、土質改善・施肥設計指導によって生育の改善を図りました。さらに、収穫調製について部会で検討し、生産性の高い調製方法の導入を図りました。

(2) 産地規模の拡大

部会員の個別面談を行い、収量・経営分析から個々の経営課題を把握し、解決に向けた支援を実施しました。

3 主な成果

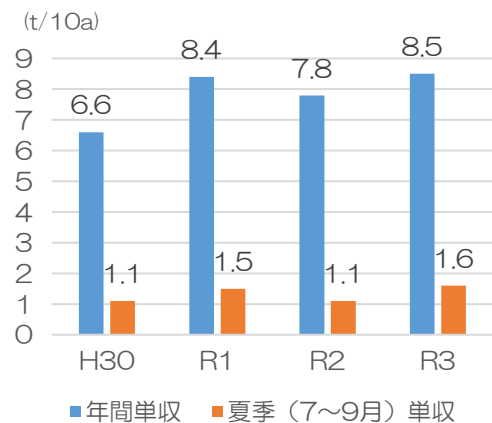
(1) 収量の向上

新品種導入や栽培技術指導の結果、生産性が向上し、単収が 6.6t/10a から 8.5t/10a に、夏季の単収においても 1.1t/10a から 1.6t/10a まで増加しました。

また、ハウス内調製法の導入により収穫調製の効率化が図られました。さらに、収穫調製の外部委託についても検討を行い、農福連携による調製作業委託の取組み事例が出てきました。

(2) 産地規模の拡大

平成 30 年から令和 3 年の 4 年間で、6 戸の部会員が経営規模を拡大しました。



J Aたがわ小松菜部会の単収推移

4 今後の取り組み

新品種の試験、収穫調製作業の効率化、経営支援等の取り組みを継続して行い、収益性の高い小松菜経営の実現を図ります。

2 普及活動の主な成果

(5) 田川地域の果樹産地の維持・拡大

1 課題化の背景

田川地域の果樹生産は、生産者の高齢化や果樹園の老木化の進行により、栽培面積は年々減少傾向にあります。そこで、産地を維持・拡大していくための省力化および早期成園化を可能とする技術の導入、改植の推進、販売環境が良好な新品目・新品種の導入、また、既存の優良園地を継承した経営体の育成を図りました。

2 活動の内容

(1) 新規品目・新品種の導入

講習会や個別巡回時に、モモ、キウイフルーツ、ブドウのシャインマスカットなどのニーズの高い品目・品種の栽培特性などを説明し、推進を図りました。

(2) 新技術導入

生産者のほ場において、ナシの平行整枝の実証ほを設置し、省力化が図られることを示しました。また、現地講習会において、ブドウの無核化処理や、イチジクの主枝更新せん定方法を実演を交えながら説明し、導入を図りました。

(3) 園地流動化

継承元と園地継承予定者に対し継承に当たって整理すべきことの説明や、園地継承者への技術・経営指導を行いました。

3 主な成果

(1) 新規品目・新品種の導入

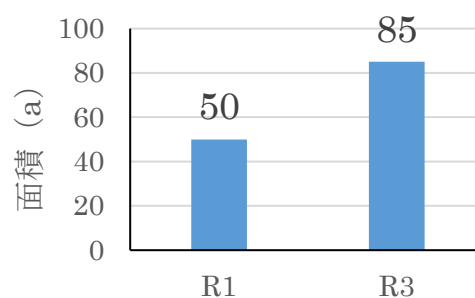
新たにモモが 18a、キウイフルーツが 13a、ブドウの新品種は 23a 導入されました。

(2) 新技術導入

新たにナシの平行整枝が 10a 導入され、ブドウは 19a が無核化されました。イチジクは 35a で新たに主枝更新せん定を取り入れました。

(3) 園地流動化

令和元年から3年間で園地継承者は3名（イチジク）となりました。



イチジク主枝更新せん定の導入状況

4 今後の取り組み

新規品目・新品種・新技術の推進を継続して行います。また、マッチング活動や技術・経営指導を通じた園地継承者の支援や、新規栽培者の重点支援を引き続き行い、田川地域の果樹産地の維持・拡大を図ります。

2 普及活動の主な成果

(6) 酪農中長期計画に基づく実践支援

1 課題化の背景

飯塚・田川普及指導センター管内の酪農経営は、担い手の高齢化、和牛繁殖経営への経営転換等により、令和3年の飼養戸数は26戸、飼養頭数は1,202頭と戸数、頭数ともに10年前の6割まで減少しています。今後、酪農経営を継続していくには、経営基盤の強化を図るとともに老朽化した施設、機械の更新を計画的に取り組んでいく必要があります。

そこで、経営改善意欲が高い酪農家を対象に自ら策定した酪農中長期計画(10年間)のうち2年目の戦略目標を達成していくため、関係機関が連携し支援を行いました。

2 活動の内容

酪農中長期計画の策定、実践の支援

(対象：管内酪農家うち経営改善意欲が高い酪農家 15戸)

- ・実践状況調査 15戸×2回
- ・個別巡回による現地指導 15戸×6回
- ・関係機関による検討会 3回
- ・畜産経営コンサルテーション 10戸

3 主な成果

(1) 関係機関と連携し飼養管理技術の向上、繁殖成績の改善、乳房炎対策、暑熱対策、自給粗飼料の確保など個別の経営目標の達成を支援しました。

(2) 本計画を策定した10戸(67%)の酪農家が戦略目標を概ね達成することができました。

しかし、酪農家ごとに精査して見ると、繁殖成績の向上、良質な自給粗飼料の確保、人材確保・人材育成、生産工程管理体制の確立などの支援が今後の課題として残りました。

(3) 飼料価格が高騰し、更に肉用子牛価格が低下する中、10年後の経営ビジョンを実現するには、本計画の見直しが急務となっています。

目標達成率	戸数
80%～	10 (67%)
50～80%	5 (33%)
合計	15

未達成項目	未達件数
施設整備・機械導入	6
繁殖成績の向上	4
良質な自給粗飼料の確保 人材確保、人材育成 農作業の省力化 生産工程管理体制の確立 飼養管理改善	2
乳房炎対策 暑熱対策 牛群改良	1

※複数回答あり

中長期計画実践状況

4 今後の取り組み

コロナ禍に対応した本計画の再構築を図るとともに、経営ビジョン達成に向け関係機関が連携し、計画的、継続的に支援していきます。

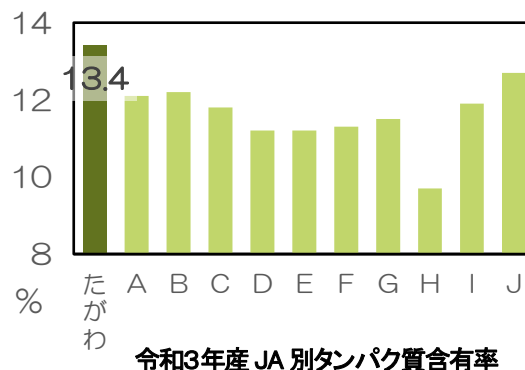
3 管内の動き(トピックス)

(1) ちくしW2号の収量・品質が向上

JA たがわ管内ではちくしW2号(ラー麦)が約59ha栽培されています。ちくしW2号は博多ラーメンなどのとんこつラーメンに適した品質を持つ品種として育成されました。実需者からは、ラーメンでの食味評価において最も重要な項目であるタンパク質含有率12%以上の確保が強く求められています。

JA たがわ麦大豆部会、JA、普及指導センターでは、部分浅耕一工程播種の推進、適期播種・雑草対策・穂揃い期追肥の徹底を図ってきました。その結果、令和3年産収量は、422kg/10a、タンパク質含有率が13.4%となり、昨年産の313kg/10a、タンパク質含有率11.6%と比べて、収量・品質ともに大きく向上しました。さらに、県内JA別の中でもタンパク質含有率が1位となりました。

普及指導センターは、今後も麦の生産力の高位平準化に向けて、支援をしていきます。



(2) 福岡県大豆作共進会・麦作共励会で表彰

令和2年度福岡県大豆作経営改善共進会農家の部で、株式会社レインボーファームが優秀賞、令和3年度福岡県麦作共励会農家の部で、株式会社レインボーファームが優良賞、集団の部で農事組合法人かわら夢ファームが優秀賞を受賞されました。

株式会社レインボーファームは大豆及び麦栽培に福岡県農林業総合試験場が開発した部分浅耕一工程播種技術導入による、適期播種と適正管理で安定的な高収量を確保し、省力化とコスト低減を同時に達成したことが評価されました。

農事組合法人かわら夢ファームは令和元年度に設立され、麦生産は初めての取組みとなりますが、部分浅耕一工程播種技術を導入し、適期播種と省力化により、管内のトップクラス農家並みの高収量と高品質を確保したことが評価されました。



大豆作経営改善共進会、麦作共励会の受賞
中央:(株)レインボーファーム 松崎代表
右:(農)かわら夢ファーム 筒井副組合長
左:JA たがわ麦・大豆部会 山口部会長

3 管内の動き(トピックス)

(3) 促成なす生産力の強化

田川地区では、1.2haの露地なすが栽培されていますが、昨年度より1戸の露地なす生産者が加温ハウスで促成なす栽培を開始し、産地としてなすの周年出荷体制が取り組まれています。促成なす栽培初年度の昨年は、定植が大幅に遅れたことにより、思うように収量が上がりませんでした。作付け2年目の今年は、昨年の課題であった適期定植を始め、草勢管理や病虫害防除を改善するため、先進地の技術・情報を参考に、支援を行ってきました。

更に、春先に多発した害虫防除対策として、土着天敵の利用を推進しました。温存植物や天敵については、管内で既に導入されているアスパラガスハウスから移植・放飼することを提案し、栽培初期からIPMを活用した防除への意識づけにつながりました。



促成なす定植作業の様子

(4) イチジクハウスにおける高温対策

近年、イチジクの施設栽培において、夏季高温下の成熟異常果の発生による出荷率や秀品率の減少が問題となっています。そこで、収穫開始後の8月に、妻面の一部を切り取り、防虫ネットと巻き上げ器を取り付けた換気設備を設置することで、ハウス内温度の上昇抑制を図りました。なお、設置費用はハウス両妻面で3万円未満と低コストで設置することができました。

試験結果は、最高温度を換気設備未設置と比べ約1.5℃下げることができましたが、成熟異常果は減少しませんでした。日中が高温となる5月からの開放と、妻面への換気扇の設置などをさらに検討し、今後も高温対策に取り組んでいきます



換気設備を設置したハウス

3 管内の動き(トピックス)

(5) JA たがわケイトウ部会の産地強化の取り組み

本年度、JA たがわケイトウ部会は、品質の向上・平準化を目指すため、現地検討会や目合わせ会を実施しました。

部会の課題として、短茎の発生、花首や茎の軟弱化、出荷時の選別のバラつきがありました。そのため、課題解決の具体的な取り組みとして、栽培面では、定植直後のかん水方法の改善、生育後半のかん水抑制、収穫前の液肥散布といった対策を行いました。さらに、選別面では、目合わせ会において、部会員のケイトウを持ち寄り、会員同士で選別基準の共有化を図りました。

その結果、前年対比で2L（草丈70cm以上）率が20%、単価が10%向上し、産地強化に繋がりました。



目合わせ会の様子

(6) オンラインフラワーアレンジメント教室でたがわの花の魅力を発信

11月14日「ふくおか農林漁業体験オンラインツアー」が田川市のトルコギキョウほ場で行われ、田川市内で草花を生産する「フェアリーグリーン」の4名が講師を勤めました。

オンラインで、収穫期のトルコギキョウ、生育中のゼラニウムやハボタンを紹介しました。事前に宅配便で参加者に花材を送りトルコギキョウ、草花、ゼラニウムなどの葉物を使ってフラワーアレンジメント教室を行いました。

他にも、福岡県のトルコギキョウや田川地域の切花を紹介し、トルコギキョウ栽培の作業や苦労、喜びを伝え、参加者からの多くの質問があり交流が深まりました。



完成したフラワーアレンジメントと
フェアリーグリーンの皆さん

3 管内の動き(トピックス)

(7) 田川地域新規就農者のつどいを開催

田川地域ではここ数年、毎年 10 名程度の方が新規に就農しており、次世代農業の重要な担い手として期待されています。新規就農者のつどいは、新規就農者が早期に定着することを目的に、毎年開催しており、今年度は大任町を会場に 11 月 10 日に開催しました。当日は、就農 1 年目から 3 年目の新規就農者や就農希望者 12 名と市町村、JA、農業共済組合、農林事務所、普及指導センター職員等あわせて 27 名が集いました。新規就農者に係る制度等の情報提供や、大任町で就農 9 年目の鈴木光輝氏の自身の体験を踏まえた講話、意見交換を行いました。農業の厳しさを含めた話があり、非常に参考になったとの声が聞かれました。



ハウス内で新規就農者に説明する鈴木光輝氏

(8) 女性農村アドバイザーが交代

田川管内では現在 8 名の女性農村アドバイザーが活動されています。今年度川崎町と赤村の女性農村アドバイザーが交代されました。県全体での表彰・認定式はコロナウイルス感染症の拡大に伴い中止されましたが、2 月 28 日に川崎町役場および田川普及指導センターで感謝状授与並びに認定証の交付式を実施しました。

退任された山下葉子氏（川崎町）、木下祝子氏（赤村）におかれましては、長年にわたり、地域農業の活性化、女性農業者の地位向上と当普及指導センターの活動に多大なるご支援、ご協力いただきましたことを厚く御礼申し上げます。

なお、後任には松本美幸氏（川崎町）、長瀬加菜氏（赤村）が認定されました。よろしくお願ひします。



退任者(右)と新任者(左)(川崎町)



退任者(左)と新任者(右)(赤村)

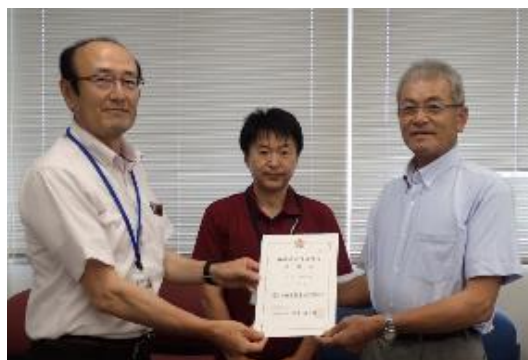
3 管内の動き(トピックス)

(9) 指導農業士交代

令和3年7月28日に福岡県農村整備センターで福岡県農業士感謝状授与・認定証交付式が行われました。田川普及指導センター管内では、現在3名の指導農業士が活動されています。添田町の井上茂之氏は、平成29年から4年間にわたり活躍され、昨年度、任期満了により退任されました。本県農業および当普及指導センターの活動に多大なるご支援・ご協力をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。なお、後任には川崎町の中村明氏が認定されました。よろしくお願いいたします。



退任された井上氏



右端が新任された中村氏

(10) 青年農業士交代

令和3年7月28日に福岡県農村整備センターで福岡県青年農業士の感謝状授与式及び、認定証交付式が行われました。田川管内では現在4名の青年農業士が活動されています。その中の赤村の鳥越耕輔氏は平成25年から8年間にわたり活躍され、任期満了により、昨年度末に退任されました。本県農業および当普及指導センターの活動に多大なるご支援・ご協力をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。なお、後任には大任町の高木隆一氏が認定されました。よろしくお願いいたします。



退任された鳥越氏



新任された高木氏

3 管内の動き(トピックス)

(11) 有限会社グロウテックが全国優良経営体表彰働き方改革部門で受賞

農林水産省及び全国担い手育成総合支援協議会は、意欲と能力のある農業者の一層の経営発展を図るため、農業経営の改善や地域農業の振興・活性化に優れた功績を挙げた農家を表彰しています。生産性が高く、「人」に優しい職場環境づくりの取組が、表彰の対象となる働き方改革部門において、有限会社グロウテック(代表取締役 佐野孝之氏)が全国担い手育成総合支援協議会会長賞を受賞しました。

有限会社グロウテックは、全国でも珍しい養液でのアスター周年栽培を行っています。また、6年前より消費者ニーズを分析し、商品性の高いハーブの切葉や枝物を導入し、多様な品目の切り花経営を行ってきました。品目が増え作業工程が複雑化する中、「働きやすい職場づくり」に重点的に取り組まれました。

具体的には、職場改善5S活動の実践、アイデアポストの設置、生産履歴システムの活用、PDCAサイクルによる改善の見える化などにより、スタッフの働く意欲と作業効率が改善され、社員が休日を取得しやすくなりました。さらに、誰でも多様な作業ができるような仕組みが出来上がり、高齢者や、子育て中の女性など、スタッフ皆が働きやすい環境が整備されました。今回、この様なスタッフ皆で取り組む「生産性が高い農業」と「働きやすい職場づくり」を実践した経営展開が高く評価されました。



センター長から佐野氏(右側)へ賞状授与



賞状

4 主な実証ほ・展示ほ一覧

対象作物名	課題名	結果概要	設置場所
水稻	水稻「ヒノヒカリ」種子生産における新規基肥一発肥料の適応性検討	地域慣行の主食米用緩効性肥料の施肥量と同等の収量・品質を確保し、実用可能である。	田川市
大豆	大豆の中耕培土期追肥による増収技術の確立	中耕培土期追肥として、被覆尿素（LPS80,50%・LPS90,50%）8kgN/10aを施用すると約25%増収した。しかし、農家所得の向上のためには、追肥にかかり増し経費分の60kg/10a以上の増収が安定的に得られることが必要となる。今後とも、本技術の確立に向けて、更なる検討を行う。	添田町
大豆	早播大豆の基肥施用による増収効果の検証	基肥を施用した試験区は施用していない対照区と比べて収量は同程度であった。これは、基肥施用により根粒の活性開始時期を遅くさせ、大豆の窒素要求にあわせた生育改善を狙ったが、生育中期の天候不順により根粒活性が高まらず、増収しなかったと考えられた。来年度以降も増収効果の検証を行う。	添田町
ナシ	ナシ「玉水」苗木の生育促進技術の実証	幼木の株元に透明マルチを敷設し、新梢伸長を促したが、新梢の伸びに差はみられなかった。	福智町
トルコギキョウ	植物成長調整剤等の混合散布処理が切り花品質に及ぼす影響	処理区は、節間長が伸長し、一次分枝数はやや増加したが、品質の向上においては、品種差があることが示唆された。	添田町
田川地域農業振興協議会園芸畜産部会 実証ほ			
アスパラガス	アスパラガス栽培におけるカルシウム資材の葉面散布による夏季高温期の病害抑制効果の検討	薬害や汚れの発生は確認されなかった。斑点性病害の発生開始時期は同等だったが、処理区の方が対照区と比べ病害の蔓延が遅く、8月中下旬の萌芽数も処理区の方が多かった。換気や剪定を徹底した上での補填技術として、病害抑制効果が確認された。	田川市 川崎町
露地ナス	露地ナス栽培における基肥一発肥料効果の検証	生育期後半の花落ちや尻太果の発生少なく、樹勢は安定していた。追肥回数は従来の6割程度に軽減され、省力効果と樹勢安定効果が確認された。	香春町 福智町
イチジク	「とよみつひめ」ハウス栽培における換気窓の設置による夏季高温対策の検討	高温障害果の減少を目的にハウスへの換気窓の設置を行った。ハウス内の最高気温を下げることはできたが、高温障害果の減少にはつながらなかった。	田川市

4 主な実証ほ・展示ほ一覧

トルコギキョウ	トルコギキョウ秋出し新品種試作	試作品種「エレスライトピンク」は、草丈が75cm以上の割合が多く、3枝率も高くなる結果となり、秋出し品種として導入可能であると判断された。	田川市
トルコギキョウ	鮮度保持剤の使用による日持ち性への影響についての検討	ハイフローラコンク処理で、「コレソライトピンク」は、日持ちが3日増加したが、「パール3型ラベンダー」は処理の有無で差が見られなかった。	田川市 添田町
花き	切り花ほ場における土壌の簡易評価法（可給態窒素の測定）の検討	可給態窒素(地力窒素)は、露地では平均2.6kg/10aで、施設では平均5.1kg/10aであった。可給態窒素が多いほ場があった。定植前の施肥指導時の簡易測定法として活用が出来ることがわかった。	管内
畜産	グリセリン飼料の給与による周産期病の予防効果の検証	分娩前後にグリセリン飼料を給与した過肥牛が、分娩後周産期病の発症もなく本飼料の予防効果を確認できた。	川崎町
福岡県農業生産資材協会受託・農薬展示ほ・肥料実用化展示ほ			
水稻	フルスコアZジャンボの一発処理剤（移植後5日～ノビエ3葉期まで）としての技術実証	地域慣行薬剤と同程度の雑草防除効果があり薬害もなく、実用可能である。	田川市
水稻	ウィードコア1キロ粒剤の中後期剤（移植後15日～ノビエ4葉期まで）としての普及性の検討	初期処理剤後の残草に対する雑草防除効果があり薬害もなく、実用可能である。	田川市
小松菜	プロフレアSCのキスジノミハムシに対する防除効果	慣行薬剤（モスピラン顆粒水溶剤）と同等の防除効果を確認できた。	大任町
小松菜	ピシロックフロアブルの白さび病に対する防除効果	慣行薬剤（ランマンフロアブル）と同等の防除効果を確認できた。	大任町
ナシ	セルカディスDフロアブルの黒星病に対する防除効果	慣行薬剤（ネクスターフロアブル）と同等の防除効果を確認できた。	川崎町

5 現地活動情報一覧

No	標 題
1	JA たがわそらまめ部会の共販出荷が始まりました ～天気に恵まれ昨年より早い出荷～
2	ドローンによる山間部の赤かび病防除 ～防除不利地での効率的防除の実施～
3	アスパラガスのアザミウマ類発生に注意喚起！ ～例年より早い発生に早期の対応～
4	家族経営協定の調印式が行われました ～家族経営のさらなる発展を目指して～
5	県内一のケイトウ産地を目指して！！ ～ケイトウ現地検討会開催～
6	田川産ケイトウの市場評価を高めるために！！ ～盆出し出荷目合わせ会開催～
7	大豆の中間管理研修会を開催 ～病害虫と長雨の対策、ドローンについて学ぶ～
8	新規就農者向け営農基礎講座を開催しました ～早期の技術・経営確立に向けて～
9	そらまめの栽培が始まります ～部会で共同播種を実施～
10	露地野菜におけるスマート農業の実用化に向けて ～ドローンによる露地野菜の防除実証試験を行いました～
11	なす周年出荷体制の強化 ～施設なすの定植が開始しました～
12	経営管理講座を開催しています ～経営状況を正確に把握しよう～
13	女性農業者の更なる活躍促進を目指して ～田川地区女性農村アドバイザー視察研修会を開催～
14	田川地域農業振興協議会園芸畜産部会が現地研修会を開催 ～実証ほでの園芸栽培技術の情報交換～
15	JA たがわ赤池梨共販部会が「新高」の出荷開始 ～大きくおいしい田川梨の主力品種～

5 現地活動情報一覧

16	高校生に就農講座を開催 ～田川の農業を知ろう～
17	農業におけるクラウドファンディング入門研修会を開催 ～正しく理解し、有効に活用するために～
18	さやえんどうの生産販売検討会を開催 ～新しい野菜産地の育成に向けて～
19	キャリアプラン作成講座を開催しました ～自分を知り、自分の望む未来を実現しよう～
20	麦播種前研修会の開催 ～省力播種技術と排水対策の実演会を実施～
21	グロウテックが全国優良経営体表彰を受賞しました. ～スタッフ皆で取組む働きやすい職場づくり～
22	田川地域農業経営研修会を開催しました ～円滑な事業継承に向けて～
23	地域ブランド「金川牛」の枝肉成績の向上 ～関係機関が連携したブランド力強化の支援～
24	労災保険による土地利用型農業の経営の確立 ～水田農業経営アドバイザー派遣支援～
25	小麦の安定生産に向けて ～追肥重点型施肥栽培の確立～
26	新規品目のナズナが順調に生育 ～筑豊地域花き生産者協議会草花研究会の活動～

(田川普及指導センターのホームページ <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/katsudou-tag2021.html> に掲載中)

6 普及指導員調査研究一覧

NO	課題名	結果概要	担当係
1	新規就農者のステージごとの課題把握と支援策の検討	技術力は経験年数とともに備わってくるが、応用力が必要なものは年数がかかること、財務・コスト管理、計画作成は、就農前から年数経過にかかわらず、課題であることが明確となった。定着のためには、営農基礎講座での体系的な技術習得に加え、財務・コスト管理、計画作成の支援を就農前から実施することが望ましい。	地域係
2	田川地区における農福連携の現状把握と課題の整理	調査した管内の農福連携事例は知人等からのつながりによるB型事業施設への作業委託（施設外就労と施設内での出荷調整作業）であった。農家からの農福連携への評価は高く、今後も拡大が期待される状況である。課題として、農家と福祉をつなぐ窓口、障がい者特性への理解不足、利用者の作業速度や不安定な作業量等があげられた。	地域係
3	スマート農業の機器導入の経営的評価	ドローンでの防除は、従来の動噴・ブームスプレーヤーが使用出来たほ場では利用可能で、労働時間の短縮と労働負荷の軽減が図れている。水稲作での一つのモデルとして、本田防除作業時間は従来比2.5時間/ha短縮となった。オペレーター時給（2名分4,000円）と防除回数（本田3回）を乗すると、1作で30,000円×栽培面積（ha）の人件費削減となる。	地域係
4	大豆の中耕培土期追肥による増収技術の確立	中耕培土期追肥として、被覆尿素（LPS80,50%・LPS90,50%）8kgN/10aを施用すると約25%の増収した。しかし、農家所得の向上のためには、追肥にかかり増し経費分の60kg/10a以上の増収が安定的に得られることが必要となる。今後とも、本技術の確立に向けて、更なる検討を行う。	水田農業係
5	任意の大規模集落営農組織の法人組織への移行支援	大規模集落営農組織に対し、農業機械の利用計画と労働力によるシミュレーションを提示を行い、法人組織への誘導を図った。	水田農業係
6	早播大豆の基肥施用による増収効果の検証	基肥を施用した試験区は施用していない対照区と比べて収量は同程度であった。これは、基肥施用により根粒の活性開始時期を遅くさせ、大豆の窒素要求にあわせた生育改善を狙ったが、生育中期の天候不順により根粒活性が高まらず、増収しなかったと考えられた。来年度以降も増収効果の検証を行う。	水田農業係

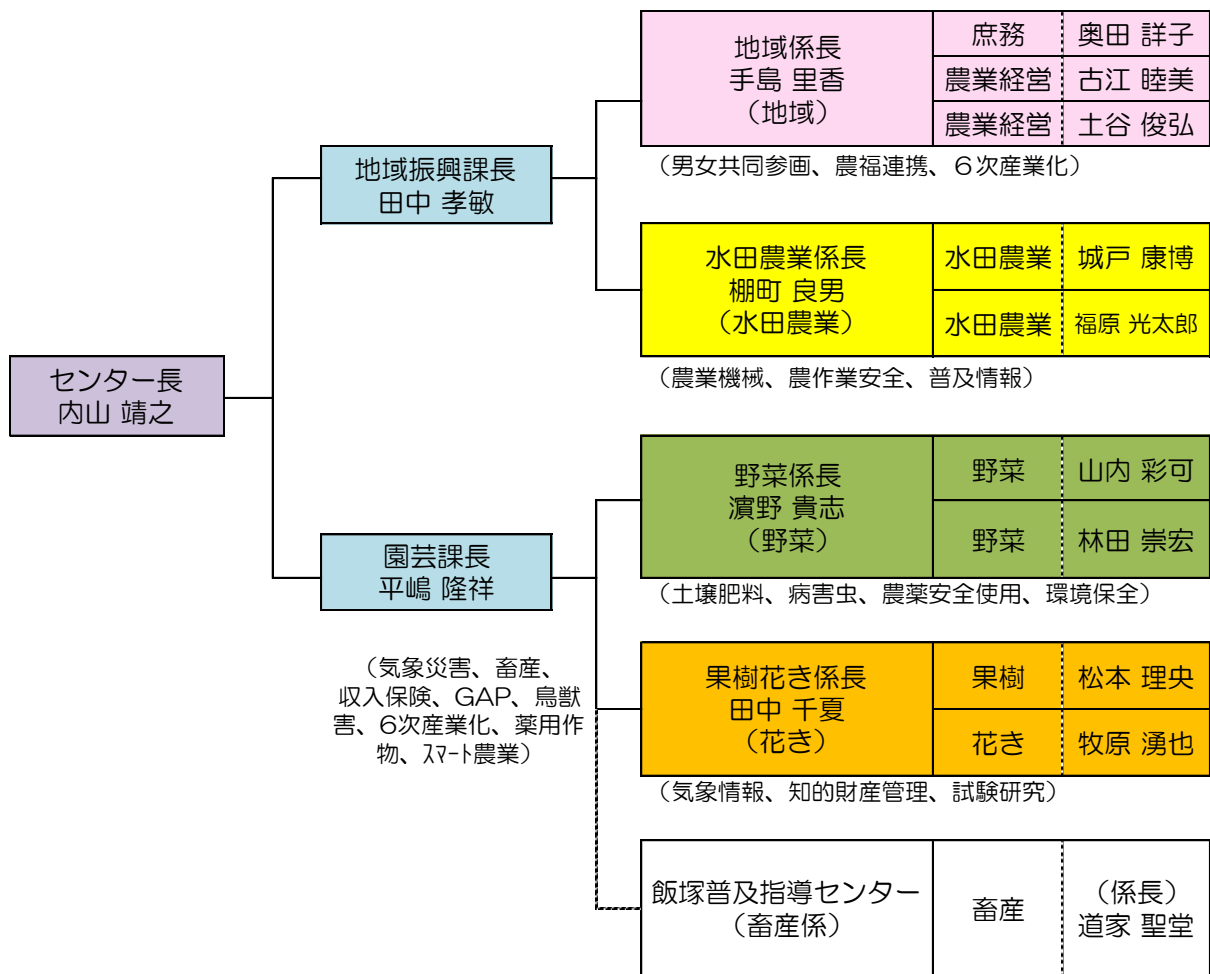
6 普及指導員調査研究一覧

7	夏期の小松菜栽培における収量低下要因の解析と対策	小松菜の収量低下の要因として、土壌の高ECによる発芽不良や生育遅延の発生が減収に影響していると考えられる。 このため、高ECのほ場では、湛水等による除塩を図ることで収量の向上が見込める。	野菜係
8	小松菜栽培における調光フィルムによる夏季高温対策	小松菜栽培ハウスに周年展張するビニル資材に、調光機能を有するビニル資材を使用することで夏場の収量向上につながった。しかし調光フィルム導入は、コストが上昇するため、上昇したコストを回収するには、周年で収量が向上する必要がある。	野菜係
9	アスパラガス栽培におけるカルシウム資材の葉面散布による夏季高温期の病害抑制効果の検討	薬害や汚れの発生は確認されなかった。斑点性病害の発生開始時期は同等だったが、処理区の方が対照区と比べ病害の蔓延が遅く、8月中下旬の萌芽数も処理区の方が多かった。 換気や剪定を徹底した上での補填技術として、病害抑制効果が確認された。	野菜係
10	切り花土壌における簡易評価法による可給態窒素の測定	切り花土壌の可給態窒素（地力窒素）は、露地では1.7～3.7mg/100gで、施設では2.3～11.3mg/100gであった。畑土壌可給態窒素の簡易・迅速評価法で測定することが出来た。今後、土壌や堆肥由来の可給態窒素を把握することで、基肥の過剰な窒素の施用を削減でき、品質の安定化やコストの低減が図られる。	果樹花き係
11	周産期におけるグリセリン飼料等の給与による予防効果の検証	プロピレングリコールの経口投与に追加でグリセリン飼料を給与すると、ケトーシスや脂肪肝などの周産期疾患の予防、産乳量の低下防止、初回授精日数の遅延防止に有効であった。また、ペレット化したグリセリン飼料は、配合飼料やTMRなどに添加しやすいので普及性は高い。	畜産係

7 各種表彰の受賞者一覧

表彰事業名	受賞者・組織	受賞内容	市町村
令和2年度福岡県大豆作経営改善共進会	株式会社 レインボー ファーム	「農家の部」優秀賞 部分浅耕一工程播種技術の導入で労働時間の短縮、燃料費の削減に努め、単収200kg/10aを達成したことが評価されました。	田川市
令和3年度福岡県麦作共励会	株式会社 レインボー ファーム	「農家の部」優良賞 全ほ場での弾丸暗渠の施工、額縁明渠の施工、部分浅耕一工程播種技術の導入で労働時間の短縮、燃料費の削減に努め、単収500kg/10aを達成したことが評価されました。	田川市
令和3年度福岡県麦作共励会	農事組合法人 かわら 夢ファーム	「集団の部」優秀賞 額縁明渠の施工、部分浅耕一工程播種技術の導入で労働時間の短縮、燃料費の削減に努め、単収503kg/10aを達成したことが評価されました。	香春町
令和3年度福岡県花き品評会	新谷 太志氏	「産物の部」農産局長賞 ハボタン「恋姿」のボリュームある花葉や花の発色が評価されました。	添田町
令和3年度福岡県花き品評会	井上 茂之氏	「産物の部」九州山口花き園芸連絡協議会長賞 トルコギキョウ「フィーノライトピンク」のボリュームのある茎葉と花型の良さが評価されました。	添田町
第57回福岡県肉畜共進会	船原 務氏	「肉豚の部」金賞 農林水産大臣賞 受賞した肉豚（1セット4頭）は、モモ、カタの肉付きや脂肪交雑、肉色、キメ、シマリなどの肉質が特に優れ、4頭のばらつきも無く、良好と高く評価されました。	赤村

8 普及指導センターの活動体制





周辺地図



アクセス

車

国道 201 号線「長浦」交差点
より約 6 分 (2.5km)

JR

J R 日田彦山線・平成筑豊鉄道
「田川伊田」駅より
徒歩約 15 分 (1.2km)

J R 日田彦山線・平成筑豊鉄道
「田川後藤寺」駅より
徒歩約 20 分 (1.7km)

福岡県飯塚農林事務所 田川普及指導センター

〒825-0002 福岡県田川市大字伊田 2741 番地の5

TEL : 0947-42-1428

FAX : 0947-44-1891

E-mail : tagawa-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704901.html>

福岡県行政資料

分類 番号 PA	所属コード 4703427
登録 年度 03	登録番号 0001